

グループプレッスンで 大人のピアノを！

わたなべ けいこ
渡辺 圭子

●「夢の風船」を大切に

一年に一度の大人のピアノ発表会「おとなのびあの・ふえすていばる」が、今年も十月十日に終わりました。二十代から八十代までの約六十名の大人たちが腕にヨリをかけて演奏した後、あるピアノの先生から「先生のところは音楽的な生徒さんはかりでうらやましい」と声をかけられました。「ピアノを習いたいんですけれど……」と言つて教室に来る人達は、決して音楽に詳しいというわけではなく、ごく普通の人々ばかりです。ただ当然のことですがピアノを嫌いな人、興味のない人は一人もいません。「乙女の祈り」を弾きたい、結婚する娘に「秋桜（コスモス）」を聴かせたい、孫の誕生日に「ハッピーバースデー」を伴奏したい……等々、どの人もピアノへの意欲に満ちています。それぞれが持つてくる小さな夢の風船をこわさないように指導していくと、生徒はその夢を自分でドン・ドン膨らませ、ついには「ホテルでディナーショーなんかしたい」というように大きく育てていきます。

●仲間で励ましあえる グループプレッスン

私が大人の初歩の指導で最も重要としている三つの柱をここでご紹介します。それは「グループプレッスン」「紙鍵盤」「譜を読む」の三本柱です。

第一のグループプレッスンは文字通り四七人グループで行なうレッスンです。大人の方は最初、「えっ、グループですか？」とためらいを表わします。皆についていけなかつたら、誰かと気まずくなつたら、と「ピアノと自分」というより「他人と自分」の関係を気にするのです。けれどピアノが弾けて、上手になりたいだけ、という本来の気持ちを再確認すると、いつの間にか「個人レッスンよりずっとイイですね」に変わっていきます。

グループのメリットはたくさんありますが、まず人の演奏を聴いているので初めての曲でも何となくやり方が分かること、自分で聴き比べて表現のよさ、悪さが分かること、難しい所や分かりにくい所を先輩が教えてくれること、自分の知っていることを仲間に教えることで、よ

●プロフィール

国立音楽大学ピアノ科・同専攻科卒業、意欲ある大人のためにピアノ指導教本を作る。最初から両手で、誰もがよく知っている曲を使って「エリーゼのために」を目標に、楽しみながら弾けるように指導していく。毎年十月十日に「おとなのびあの・ふえすていばる」を開催、二冊の教本修了者に終了証書を発行している。「大人のためのピアノ教室」主宰。
<http://www.readmusic.jp/>



●著書
それは「ネコふんじゃったからほじまった①②」
「エドレスケールと抜粋ハンソ」(以上音楽之友社)「私だつてソチエルトが弾きたい」(ほかに数誌)

り力がつくこと……。グループプレッソンの最初には全員で教本の曲を全部ドレミで歌うのですが、全員で歌つことにより仲間意識が芽生えます。グループプレッスンで数年間を過ごす、個人レッスンに変わつてからでも皆でピアノのあるレストランに繰り出したり、年齢差を越えて情報交換したり、良いコミュニケーションを作っていきます。東京の「恵比寿ガーデンプレイス」では一般にスタインウェイを公開しているのですが、彼らは一年に一〜二度、使用を申し込み、出かけて行って、公衆の前でピアノを弾いたりして度胸をつけているようです。

●紙鍵盤で指を動かすこと が上達への近道

第二の紙鍵盤はグループプレッソンの必需品で、こんなに役立つものはありません。グループプレッスンでは、まず一人の人がピアノに向かって実際に曲を弾き、他の人たちはその曲を紙鍵盤と一緒に練習するという形を取っています。紙鍵盤はいくら叩いても音は鳴りませんし、キイも動きませんから、他の人が演奏している曲を自分なりに練習するのに持つてこいなのです。初めてグループプレッスンに加わり、それまで全然ピアノを弾いたことがない人でも、「ミ」の位置さえ分かれば「禁じられた遊び」でも「エリーゼのために」でも平気でピアノを弾いている人に合わせて指を動かしていきます。音や指使いが違つてもメロディに合わせて指を動かすことは、どんなに早く曲を自分のものにしていけるか、一度経験した大人はすぐに分かります。それです。ピアノを実際に弾く前にドレミで歌い、紙鍵盤で手がキイの上を動く感覚を体験してもらおうのです。

●大人ならではの 「譜を読む」レッスン

第三の「譜を読む」、何と言つてもこれがなければ大人のレッスンを始めることはできません。もちろん音楽は譜を読むことから始めて当たり前、と思われれることでしょう。けれど私の教室では、ただ単に拍子、調性、形式等にとらわれず、より深く作曲家の意図を読み取るためにメロディや伴奏の音やリズムに従つて読んでいく桑原利子氏考案の「譜を読む」が大切だと考え、取り入れていきます。これは大人のピアノに限ったことでは

ありませんが、これまでのピアノのレッスンでは「粒をそろえて」「拍子・調性感を持って」「力を抜いてきれいな音で」等、音楽全体の流れよりも、技術的にきちんと弾くことに重点が置かれていたように思います。その結果、その曲をどのように表現していくかということについては、演奏者個人の感性に委ねられてしまっていたことは否めません。

しかし、曲の中の音がどのように上昇下降し、どのようにリズムを取るかは作曲家の指示したとおりに演奏しなくてはならないのですから、原則的な弾き方はおのずと決まってきます。一つの曲の流れの中で音形やリズムがどう変わっていくか、それを具体的に教えるのが指導者の役目ではないでしょうか。

私のレッスンでは、テクニクの指導と同時に、曲の成り立ち、メロディ、リズムの弾き方を最初から説明します。どんなにやさしい曲にも作曲家の意図があり、その意図を一貫性を持って弾くことが「人に伝わる音楽」になり、飽きない曲に仕上がるのです。大人たちは、テクニクのおぼつかなくとも、『譜を読む』ということをよく理解し、例えば「河は呼んでる」では小さな川が三度差で暴れて大きな河へと成長していく様子を、「かつこうとろば」（いずれも自著）それは『ねこふんじゃった』からはじまった（音楽之友社刊）より）ではのんびりした口バをカッコウが誘って一緒に歩く姿を、誰もが音形から確実につかんでいきます。すると、今まで「わからない」「絶対にこんな難しい曲は弾けない」と思っていた曲が一変、「おもしろい」「目

からウロコ」というように変わっていくのです。その結果、彼らはベートーヴェン、ショパンをはじめ、ドビュッシー、シベリウスなど、さまざまな曲にトライしていきます。そして、仲間同士でお互いの演奏についてコメントし合ったりして、時にはレッスンの時間がちよつとした演奏研究会になったりもします。

「ワケが分かったから努力を惜しまない」「上達を感じることができたからやめられない」のが大人の特徴です。その想いが次のテクニク向上への動機づけとなるのです。

私の教本「大人と子どものためのピアノ教本」一〜六巻（音楽之友社）には「譜を読む」に基づく「弾き方のヒント」を巻末に付けてあります。これは指導者の目安にも演奏する助けにもなるはずですが、誰もが共感できる演奏は、「世界共通語」としての音楽を理解し、表現すること。それは「譜を読む」レッスンから始まります。豊富な人生経験を持ち、理解力も備わった大人の方には、ぜひ「譜を読む」でレッスンを始めてほしいと思います。（完）



大人の
ための
ピアノ教室

☆セミナーレポート☆

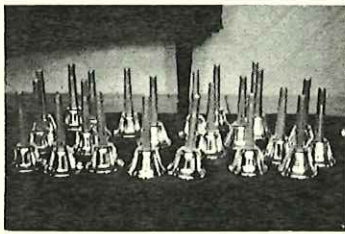
◎福井 幾

『ミュージックベル演奏入門講座』

そのかわいらしい音色と形、そして手軽に音を出せることなどから、現在、ミュージックベルは保育園、幼稚園に通う小さな子どもから老人施設のお年寄りにまで幅広く愛用されています。また、ミュージックベルはアソソナルをさせる基礎に非常にいい、ということからもピアノ教室、またピアノ発表会などでも活用されているようですね。

このように、年々一般への認知度を高めていっているミュージックベル。しかし、これまでにその演奏法をきちんと学べる機会はありませんでした。そこで今回実現したのが、ヤマハミュージック立川で開催された「ミュージックベル演奏入門講座」。講師は全日本ミュージックベル顧問で、サールベル社をはじめ各社からミュージックベル教本、コード進行教本などを多数出版されている福井幾氏です。

実は今回のこの入門講座には、何と百名を超す応募があったそうです。そこで、急遽



これがミュージックベル。音域は2オクターブ、25音。半音もちゃんと出ます。何と言っても形がカワイイ!!



即席コンクールで熱演の図。即席ながら皆さんさすが音楽家、腕の振り、アイコンタクト……演奏上の工夫が見られました。

別の日を設け、二回に分けて行なうことに。しかもその大半がピアノ・エレクトーンの先生ということに、改めて先生方のミュージックベルに対する関心の高さがうかがえます。今回の講座では、参加者一人一人に一つずつベルが貸し出され、ベルの持ち方、鳴らし方、音の消し方、トレモロ、スタッカートといった基礎的な奏法から、複数のベルの持ち替え、強弱のつけ方までを実際にベルを使って体験。そして最後は、参加者が三つのグループに分かれ、ウエルナーの『野ばら』、サールベル社ミュージックベル合奏アルバム『愛のロマン』よりを課題曲に、即席パフォーマーが行われ、熱演が繰り広げられました。

今回の講座はあくまで入門講座。今後は音感教育ソルフェージュへのベルの導入法、曲のアレンジ法などを学ぶ応用講座も各地で開催予定とのこと。

手軽に演奏できて、子どもの音感教育はもちろん、発表会での保護者演奏などにも使えるミュージックベル。レッスンの小道具に、また発表会の盛り上げツールとして取り入れてみてはいかがでしょうか？

12月の新刊&おすすめ本

いま、話題の本!!

●フジ子・ヘミング |

奇蹟のカンパネラ

NHK・ETV特集で初登場した「フジ子・ヘミング」の衝撃デビュー本! 彼女の演奏は「語っている」という表現がピッタリ! 自筆画収載。(シヨパン 1000円 発売中)

●風のジャクリーヌ

—ある真実の物語—

わずか42歳でその生涯を閉じた天才チェリスト=ジャクリーヌ・デュプレの物語。来春映画公開。それにしても、D.パレンボイムと結婚していたとは……(シヨパン 1900円 発売中)

●ピアノの悩みを解決する本 Vol.3

びあのクリニック

～進路・就職編～

音大に入ったもの……という将来がピアノを習う生徒さんを待ち受けているかもしれません。生徒さんへのアドバイスの参考になります。(ヤマハ 1300円 発売中)

●音楽おもしろ雑学事典

知ってるようで知らない

落語で言えば「火焰太鼓」や「時そば」のようなもので、何となく分かるんだけど、本当のところはどーなの? という時、お役にたちます。(ヤマハ 1500円 12/14再版予定)

●斎藤秀雄 講義録

—子供のための音楽教室広島分室における講義録—

大学の講義テキストのようでありながら、話し言葉そのままに書かれていますので、大変理解しやすい読み物となっています。教育者として一線の音楽家を送り出した秘訣は……(白水社 3200円 12/下再版予定)

●葉っぱのフレディ

《パッケージセット》

絵本・CD・楽譜のパッケージセットが発売になりました。もう読んだ人にも、まだ読んでない人にもウレシイプレゼント、クリスマスの贈り物に!(全音 4800円 発売中)

* 最新ヒット曲 *

●モーニング娘。/タンポポ/ブッチモニ

「LOVE マシーン」/聖なる鐘がひびく夜 /ちょこっとラブ」

つくプロデュースのモーニング娘。とそこから派生したユニット2組。今年の忘年会は「LOVEマシーン」で決まり! とか……。(シヨイン 500円 12/中)

●ピアノアリアムバシナル — シネマ —

～愛を奏でて～

来春上映予定の「海の上のピアニスト」から「愛を奏でて」『モーツァルト再来』を収載。(ヤマハ 800円 12/中)

●ピアノファンダーランド 2000年 1～2月号

毎月売り切れの人気楽譜集。

最新曲は「ファンダーランド」から!

(ドレミ 550円 12/下)

* 教本・曲集 *

●田丸版 こどものバイエル 第5巻

全6巻シリーズのうちの5巻目。

学習意欲の向上、達成する喜びを実感できるように編集。

かわいい表紙も人気です!

(学研 1000円 発売中)

●音大入試対策2000

— 楽典問題の傾向別実例集 —

いよいよ受験生も勝負の時!

先生も指導に力が入るところですね。

入試問題を集中的に学習できる本書は

最後の追い込み必須!!

(リマムーズ 2700円 12/中)

●受験生の聴音課題 CD 上級

受験生に必須の聴音。CDで最後の確認

を! 上級編は受験生レベル。

(リマムーズ 6000円 12/中)

●大人のらくらくピアノ/21

本紙4号で寄稿して頂いた、渡辺明子先生の楽譜がリニューアルされて登場!!

現場でのご経験から、生徒さんが弾きやすいようにと心を砕かれた一冊。

今回はビートルズの「ヘイ・ジュード」、

「エリゼのために」全曲やさしいアレンジ版などが加わり、楽しい表紙とあい

まって、一層パワーアップされています!!

(ドレミ 1200円 発売中)

●音楽療法の現拠から贈る

歌の宝石箱(手あそびつき)

音楽療法セミナーでご活躍の呉竹先生

が編集された歌集が発売されます。

大きな活字、歌いやすい音域、と工夫が

盛りたくさん!!

(ドレミ 2200円 12/下)

* ビデオ *

●井上直幸/ビデオ版「ピアノ奏法」

八ヶ岳高原音楽堂での撮影終了! 来春3月の発刊が待たれるところです。先行予約のお客様には初回限定プレゼントも!

【お詫び】先月お知らせした予定価格を上下巻各3800円に訂正いたします。申し訳ございませんでした。

* アニメミュージック *

●オルゴール風アレンジで弾く ディズニー名曲集

(ヤマハ 予価1600円 12/下)

●ディズニーメロディアルバム ターザン

(ヤマハ 680円 発売中)

●ピアノ&ヴォーカル ターザン

(ヤマハ 予価2300円 12/上)